

## 再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	地域高規格道路 一般国道2号 笠岡バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局	
起終点	自：岡山県笠岡市西大島新田 至：岡山県笠岡市茂平	延長	7.6 km			
事業概要	<p>一般国道2号は、大阪市を起点とし、瀬戸内海沿岸の諸都市を連絡し、北九州市に至る延長約670kmの主要幹線道路である。</p> <p>笠岡バイパスは、岡山県西部地域の交通混雑の緩和及び交通安全の確保等を目的とした延長7.6kmのバイパスである。また、地域高規格道路「倉敷福山道路」の一部を構成するものである。</p>					
S63年度事業化	S63年度都市計画決定	H2年度用地着手	H10年度工事着手			
全体事業費	約300億円	事業進捗率 (H21年度末現在)	52%	供用済延長	3.3 km	
計画交通量	40,300 ~ 44,700 台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (3便益) (事業全体) 3.9 (残事業) 8.3	総費用 (残事業)/ (事業全体) 120/320 億円 事業費： 96/290 億円 維持管理費： 24/30 億円	総便益 (残事業)/ (事業全体) 999 / 1,246 億円 走行時間短縮便益： 753/931 億円 走行費用減少便益： 162/208 億円 交通事故減少便益： 84/107 億円	基準年	平成22年	
感度分析の結果	<p>残事業について感度分析を実施</p> <p>交通量変動： B/C= 10.8 (交通量+10%)      B/C= 6.6 (交通量-10%)</p> <p>事業費変動： B/C= 7.7 (事業費+10%)      B/C= 9.1 (事業費-10%)</p> <p>事業期間変動： B/C= 7.6 (事業期間+20%)      B/C= 9.1 (事業期間-20%)</p>					
事業の効果等	<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・損失時間の削減が見込まれる</li> <li>・現道における混雑時旅行速度の改善</li> <li>・バス路線の新設による利便性向上や笠岡市から福山市方面に向かうバス路線の定時性が確保されるなど利便性が向上</li> <li>・浅口市から福山駅（新幹線駅）へのアクセスが向上</li> <li>・福山市から岡山空港（第三種空港）へのアクセスが向上</li> </ul> <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・笠岡港港町地区工業団地から水島港（特定重要港湾）へのアクセスが向上</li> <li>・農林水産品を主体とする地域：笠岡市（花き、肉用牛等）、主な出荷先：岡山県内、京阪神方面</li> </ul> <p>③国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常活動圏の中心都市へのアクセス向上（里庄町～福山市）</li> </ul> <p>④個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する（笠岡湾干拓地域バイオマスタウン構想）</li> <li>・主要な観光地へのアクセス向上（倉敷美観地区の入り込み客数（H20）：3,242千人/年）</li> </ul> <p>⑤安全で安心できる暮らしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺ネットワークとの一体的な整備による三次医療施設へのアクセス向上（浅口市～福山市民病院）</li> </ul> <p>⑥安全な生活環境の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・死傷事故件数の削減が見込まれる</li> </ul> <p>⑦地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CO2排出量の削減が見込まれる</li> </ul> <p>⑧生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NOx排出量の削減が見込まれる</li> <li>・SPM排出量の削減が見込まれる</li> <li>・騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間において、騒音レベルの低下が期待される</li> </ul>					

関係する地方公共団体等の意見

笠岡バイパスは、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、3市1町（倉敷市、浅口市、笠岡市、里庄町）から構成される「国道2号玉島笠岡間整備促進協議会」より、早期整備の要望を受けている。

岡山県知事の意見：

一般国道2号 笠岡バイパスについて、継続するとの対応方針（原案）については異存ありません。

本事業の整備により、国道2号やその周辺道路の混雑軽減及び交通事故の減少等が期待されるとともに、県南西地域と福山地域の連携強化、物流ネットワークの形成や企業立地の支援による沿線地域の活性化を図るためにも、本事業の早期完成が必要である。

事業評価監視委員会の意見

事業者から事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

笠岡湾沿岸部工業地帯の産業振興や笠岡湾干拓地域のバイオマスタウン構想等により、沿線地域において更なる交通需要が見込まれる。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度末で用地買収は約98%完了しており、現在までに、「笠岡市西大島新田～笠岡市入江（L=0.4km）」及び「笠岡市カプト南町～笠岡市港町（L=2.9km）」間の側道部を供用済み。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

投資効果の早期発現を図るため段階的に整備しており、引き続き早期全線供用を目指し事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

最新の地盤改良工法の採用、軽量盛土工法の採用、海浜・海岸耐候性鋼材の使用によりコスト縮減を図っている。【約4.8億円の減少】

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。